

# 地域診断にもとづく高齢者の通いの場づくり

～JAGES地域診断支援ツールを活用した長崎県松浦市の成功例～

「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、地域診断に基づいて地域の課題やニーズに応えることが求められています。JAGES地域診断支援ツールは、日本老年学的評価研究（JAGES）調査に参加した市町村のデータや、保険者からご提供いただいた調査データをもとに、地域の課題を診断できるツールです。長崎県松浦市の保健師は、JAGESの地域診断支援ツールを使って高齢者の生活と健康に関連するニーズを捉え、エビデンスに基づいた高齢者の通いの場（以下、サロン）づくりを行っています。松浦市では、ニーズであった「共食」「対話」「買物」ができることを楽しみにサロンに通ってくる高齢者が増えました。さらに、サロンを支援するボランティアは、参加高齢者の変化や自らも元気になっていくことに楽しみを感じています。

長崎県松浦市の実践から、JAGESの地域診断支援ツールは、

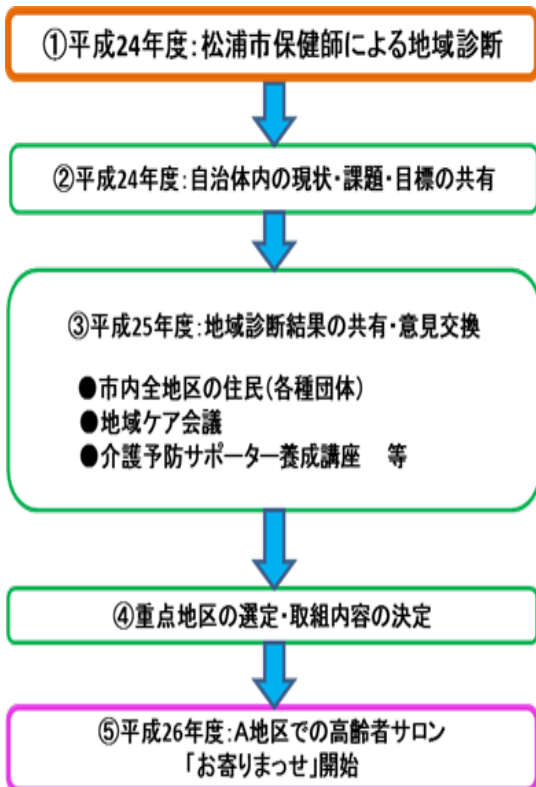
- ◇ 高齢者の健康と生活の関連と課題を「見える化」して把握できる
- ◇ 住民・関係者・市町村保健師の協働につながる情報共有・検討を促進する
- ◇ 課題解決のための支援内容と必要な協力者の検討を促進する

などにおいて、有用であることが明らかになりました。

お問合せ先： 長崎県立大学 看護栄養学部 看護学科 山谷麻由美  
Tel/Fax：095-813-5321 E-mail：m-yoshi@sun.ac.jp

## ●松浦市の地域診断支援ツールの活用過程

## ●地域診断支援ツールの内容例



### ①地域診断書

項目	調査対象者	今回値 (2013)	前回値 (2010)	増減	基準値	地域評価
Y 高齢者全体：生活機能評価						
運動機能低下割合	データなし	0.21	0.17	0.03 ↑	0.19	0.28
認知機能低下割合	データなし	0.06	0.10	-0.03 ↓	0.04	0.13
認知機能低下割合	データなし	0.02	0.02	0.00	0.02	0.17
認知機能低下割合	データなし	0.18	0.15	0.02 ↑	0.16	0.54
認知機能低下割合	データなし	0.05	0.05	0.00	0.05	0.15
認知機能低下割合	データなし	0.38	0.34	0.04 ↑	0.36	0.41
認知機能低下割合	データなし	0.25	0.51	-0.26 ↓	0.26	0.42
Y 高齢者全体：日常生活評価						
IADL(自立度低下割合)	データなし	0.12	0.06	0.06 ↑	0.12	0.19
Y 高齢者全体：社会参加評価						
知的活動性低下割合	データなし	0.10	0.09	0.01 ↑	0.11	0.28
社会的役割低下割合	データなし	0.20	0.19	0.01 ↑	0.23	0.30
ボランティア参加割合	データなし	0.05	0.04	0.01 ↑	0.06	0.02
スポーツの会参加割合	データなし	0.22	0.20	0.03 ↑	0.20	0.02
趣味の会参加割合	データなし	0.23	0.26	-0.03 ↓	0.19	0.06
老人クラブ参加割合	データなし	0.04	0.07	-0.03 ↓	0.04	0.02
Y 高齢者全体：その他						
独居者割合	データなし	0.13	0.11	0.01 ↑	0.15	0.33
Y 高齢者全体：生活習慣等の状況4項目						
						0.07

地域の高齢者の生活機能、社会参加、生活習慣等のスコアが表示される。右側のバーは他地域と比較した場合の評価を示す。

## ■背景

団塊の世代約800万人が後期高齢者になる2025年には、医療・介護の需要がさらに増加すると見込まれています。厚生労働省は、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進し、第6期介護保険事業計画で、市町村に対し、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを求めています。そのうち予防については、疫学的手法を用いて地域の健康課題を把握し、評価結果を地域住民に公開し、住民組織の主体的参加を得て、高齢者の通いの場づくりを行うことが課題です。「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、地域診断に基づいて地域の課題やニーズに応えることが求められています。そこで、本研究では、JAGES（日本老年学的評価研究）プロジェクトの地域診断支援ツール ([http://www.yobou\\_bm.umin.jp/](http://www.yobou_bm.umin.jp/)) を活用してサロンを展開した過程を記述し、同ツールの役割や有用性を検討しました。

## ■対象と方法

2012年～2015年にサロンを展開した経過を、松浦市地域包括支援センター保健師に聞き取り調査しました。また、2013年6月に実施したA地区説明会参加者（民生児童委員・地区長他）25人に、アンケートで地域診断支援ツールへの評価を尋ねました。さらに、2014年11月に、A地区サロン参加高齢者8人（男性2人・女性6人）と住民サポーター8人（女性）に、グループインタビューでサロンの意義等を尋ねました。

## ■結果

保健師は、地域診断支援ツールを、所管課や地域包括支援センター内での課題と目標の共有、市内7地区の市民や地域ケア会議、介護予防・地域支え合いサポーター養成講座参加者への情報提供・意見交換に活用していました。市民は、地域診断結果の「見える化」で、地区の健康・生活課題を知り、関心を持つことができました。そして、A地区サロンの展開では、地区の健康・生活課題から、必要な支援内容と、必要な協力者（組織）について住民サポーターと保健師が共に考え、「住民主体の通いの場」の開設と運用につなげていました。サロン参加者数は、参加者同士の口コミなどにより1年間で約2倍に増えました。また、「対話で心がほぐれる」「食事をみんなでできる」「買い物ができる」など、サロンが参加者のニーズに応えられていると評価することができました。

## ■結論

地域診断支援ツールの役割と有用性は、①保健師の経験知をエビデンスとして「見える化」でき、保健師の地域診断実施の動機づけになる ②高齢者の健康と生活の関連と課題を「見える化」して把握できる ③住民・関係者・市町村保健師の協働につながる情報共有・検討を促進する ④課題解決のための支援内容と必要な協力者（組織）の検討を促進する ⑤比較により活動評価ができる可能性がある ということでした。

## ■本研究の意義

松浦市の高齢者サロンの特徴は、保健師が地域診断を行って市内7地区の健康・生活の分析・比較をし、優先課題を明らかにして、重点地区の選定を行ったことにあります。さらに、地域診断結果を市民・地域ケア会議のメンバー・住民ボランティア等に説明し、課題の共有・目標の設定・取り組み内容の検討を、地域診断の根拠に基づいて行ったことです。JAGESの地域診断支援ツールは、保健師の地域診断を助け、根拠に基づいた事業展開等を支援する有用なツールであることが明らかになりました。

## ■論文

「長崎県松浦市における地域診断支援ツールを活用した高齢者サロンの展開：JAGESプロジェクト」『日本公衆衛生雑誌』第63巻 第9号 P578-585（2016年09月15日） 山谷麻由美、近藤克則、近藤尚己、荒木典子、藤原晴美 共著

## ■謝辞

本研究は、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業（平成25-27年度）「介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究」、日本医療研究開発機構（平成26-28年度）「データに基づき地域づくりによる介護予防対策を推進するための研究」の支援を受けて実施し、JAGESが開発した地域診断支援ツールを長崎県松浦市で活用して行いました。記して深謝します。